

## 災害ボランティアコーディネーターに望むもの

名古屋大学大学院環境学研究科 福和伸夫

災害ボランティアコーディネーターの方々の役割を十分に承知していない私には、表題のタイトルはちょっと荷が重いので、普段感じていることを忌憚無く書かせて頂く。

本来、防災の端くれの仕事をしているので、コーディネーターの方との交わりはもっと早くからあるべきなのに、コーディネーターの方と親しくお付き合いするようになったのは2年ほど前からである。神戸での震災以降、ボランティアと専門家との接点が多くなくなったのは、それぞれが解決すべき課題を多く持っていたこと、備えのための行動がやや少なかったことが理由とを感じる。幸か不幸か、東海地震騒ぎがこの状況を変えてくれた。備えの重要性が明らかになり、ボランティアと専門家が協働しなければ、市民を啓発し、備えに結びつけられないことが分ったからだと思う。ここ数年、私も啓発の大事さに目覚め、積極的に街に出るようになった。すると、いつも同じ顔の人たちと出くわす。それが皆ボランティアの方々だと知るのに時間はかからなかった。ただ、皆さんは、余りに掛け持ちが多いようである。防災リーダーの会でも、防災訓練でも、どこでも同じ顔を見る。でも、おかげで、徐々に親しくなってしまった。そうすると、土日に外ばかりで家族に見捨てられないだろうか、収入の糧はあるのだろうか、と皆さんが心配になってくる。中には、職を辞めNPOを設立された無謀(?)な方も居る。給料が滞っている様子を見ると、応援しなくっちゃという気分させられてしまう。おかげで、当方も少しずつ巻き込まれつつある。しかし、最近の愛知県の木造無料耐震診断の市町村別の実績を見ると、皆さんが頑張っている所の診断実施率は極めて高い。やっぱり啓発の力は大きい。皆さんと一致協力して頑張らなくっちゃと思ってしまう。さて、前置きが長くなってきたのでそろそろ本題。

紙面も残り少ないので、気にしていた方がよさそうなことを思いつくまま箇条書きで・・・

- 1) 災害観をしっかり持つ。そのためには基礎学力をつける勉強が必要。
- 2) 沢山の兼務は止める。いざというときは一つしかできない。
- 3) まずは我が家から。災害時に役に立てる人間になるには己と家族の無事が前提。
- 4) 「豊かな生活を築くための防災」をモットーに。
- 5) 頑張るより続けること。無理をせず、できることから、明るく、元気よく。
- 6) 大きな声。それがリーダーシップの基本。
- 7) 話上手。それが啓発の基本。
- 8) ノ(飲)ミニュケーションもほどほどに。健康第一。
- 9) 道具とネーミングを大事に。
- 10) 他の村(例えば役所や学校)を旨く利用。元気な人を捕まえしっかり頼ること。
- 11) 主役では無く脇役に。そうすれば皆が動いてくれる。
- 12) 明るい愚痴は良いが深刻になるな。人が離れていく。
- 13) 一に体力、二に気力、三・四が無くて、五に知力。

こんなことをつらつら書いていて、ふっと思い出したのは、お経と説教で鍛えた毒舌の災害VCの方でした(笑)。皆さん、これからも楽しく頑張ってください。